



# カレイ



かれんと いんぷおめ〜しょん

2007.4.1 発行：No.56  
TEL 03-3985-2628  
立教大学図書館

## 新入生特集号

### 目次

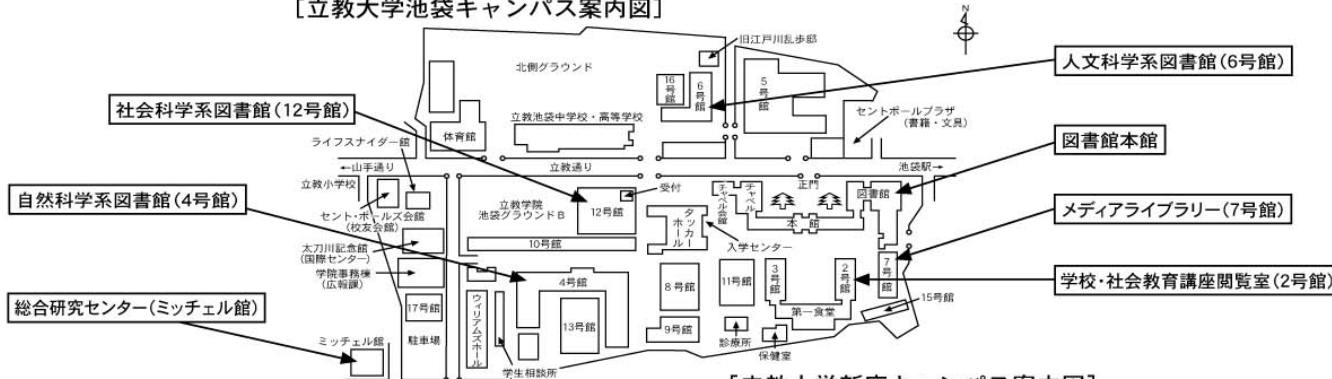
新入生特集号	p1
情報検索講習会、やってます!!	p2
図書館本館からのお知らせ	p3
新入生に奨めたい10冊	p4

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。  
これから始まる大学生活では、自分で資料や情報を収集し、  
レポートを書く機会が多くなります。そんな時にはぜひ、  
立教大学図書館を活用してください。

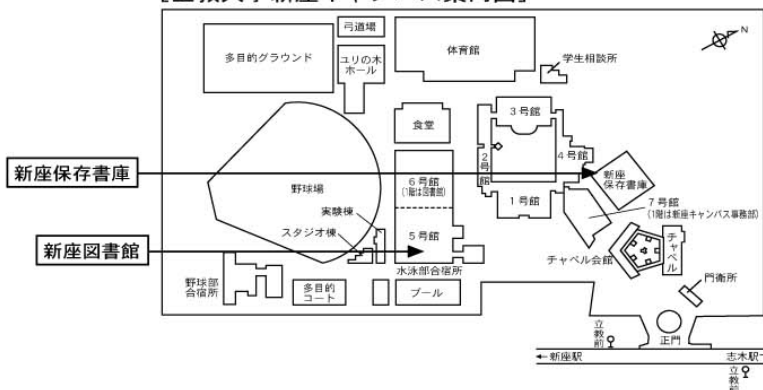
池袋キャンパスには、図書館本館・人文科学系図書館・  
社会科学系図書館・自然科学系図書館の4つの図書館があります。新座キャンパスには新座図書館と新座保存  
書庫があります。新座保存書庫には直接入館できませんが、資料は図書館本館・新座図書館に取り寄せて利用  
することができます(ただし大学院学生は各図書館に取り寄せ可能)。また、図書館以外に総合研究センタ  
ーや学校・社会教育講座閲覧室にも、学生が利用できる資料があります。まずは、図書館ウェブサイト  
<http://opac.rikkyo.ac.jp> のwwwOPAC(蔵書目録)で、探している資料がどこにあるかを確認してく  
ださい。所蔵館を確認したら、地図を参考にして図書館に行ってみましょう。なお、一部の資料をのぞき池袋  
キャンパスにある資料は新座図書館に、新座キャンパスにある資料は図書館本館に取り寄せて利用できます。

図書館では、今後広報誌「カレイ」や図書館ウェブサイトで、みなさんに図書館をより便利に使っていただくた  
めのコンテンツをご紹介します。図書館にも、図書館ウェブサイトにも、どんどんアクセスしてください。

[立教大学池袋キャンパス案内図]



[立教大学新座キャンパス案内図]



★返却はすべての館でできます。  
ただし、学校・社会教育講座閲覧室で借りた本は  
学校・社会教育講座閲覧室に返却してください。

# 情報検索講習会、やっています!!

今回はみなさんに、立教大学図書館が提供するサービスについていくつか紹介したいと思います。「なるほど、図書館ってすごい!大事なんだあ〜!」と、思ってもらえるサービスが盛り沢山です。図書館を使い倒して、充実した大学生活と、新しい何かを発見してください!

ではまず、大学生にとってどうして図書館が大事なのか考えてみましょう。大学の勉強は自学自習が基本です。講義を聴き、資料・情報を集めてレポートを書き、プレゼンテーションを通して自分の意見や考えを発表したりもします。4年間の集大成として卒業論文を書く人も多いでしょう。これらの作業でまず必要となるのが、適切な情報を集め、分析し、表現する能力です。情報リテラシー能力とも言われています。大学生のうちにこの能力を身に付けておけば、学習面のみならず、就職活動や社会人となっても大いに役立つはずです。

世の中には膨大な資料や情報があります。この中から、適切な情報を効率的に取り出すにはどうしたらいいのか?この疑問に答えるのが、情報検索講習会です。講習会では、立教大学図書館で所蔵している資料の検索の他、他機関で所蔵している資料の検索・取り寄せ、立教大学図書館が契約している新聞や雑誌、学術情報データベースの利用方法などを、演習方式でパソコンを利用しながら講習します。



情報検索講習会は希望者(個人やゼミ単位の申し込みによるもの)に随時行っているものと、授業内で行われる「授業内情報検索講習会」(教員からの申し込みによるもの)があります。いずれも、図書館員が丁寧に講習しますので、パソコンに不慣れな人でも大丈夫!昨年度、授業内情報検索講習会には2,500名を超える学生が参加し、「情報収集テクニックが身に付けられ、ゼミ学習で役立った。」「図書館にはさまざまなサービスがあることを知りました。1年次に受けて良かったです。」などの感想が寄せられました。

## 講習会インフォメーション

資料・情報の探し方、レポート・論文の作成方法など、図書館ではさまざまな講習会を行っています。詳細は図書館ウェブサイトやポスターで掲示しますので、積極的に参加してみなさんのスキルを磨いてください!

- ① **OPAC講習会(4月・9月)**・・・学部1年次生向けに学内資料の検索方法を講習します。  
\*「OPAC」とは、学内蔵書検索システムのことです。  
4月日程 : 4月16日・17日・18日・19日・20日 (本館・新座図書館)
- ② **オンラインデータベース講習会(6月・11月)**・・・新聞・雑誌・学術情報のオンラインデータベース利用方法を講習します。
- ③ **レポート・論文作成講習会(7月・12月)**・・・情報収集や作文ルールについて講習します。
- ④ **情報検索講習会(随時)**・・・基本的な情報検索ツールの利用方法を講習します。

# 図書館本館からのお知らせ

## 図書館本館 旧館リニューアルオープン

2006年8月より行ってきた図書館本館旧館（2階参考室、1階閲覧室・グループ閲覧室等）の耐震補強工事が2006年12月に終了し、内装・設備等を一新して2007年1月よりリニューアルオープンしています。

参考室カウンターを新しくした他、書架・閲覧席なども従来の趣きを残したまま修復し、床や照明などのデザインも雰囲気にあわせて整備しました。また、冷暖房設備を新しくし、1階に女子トイレを作ったため、より快適に過ごせるようになりました。皆さんに安心してご利用いただけるよう、安全確認カメラも設置しています。

さらに、新館から参考室へ至る入り口付近には新たに展示スペースも設けました。(写真右) ここには、立教大学所蔵の貴重な資料などを随時展示してまいります。この機会に是非、図書館本館旧館へ足をお運びください。



リニューアルした旧館2階・参考室



新設した展示ケース（現在は「立教大学新聞」を展示中）

## 図書館本館前に自動販売機コーナーを新設しました！

図書館本館入口横に自動販売機コーナーを設置しました。

図書館本館入口へと続く大階段を上ったところ、図書館の建物の外にあります。温かい飲み物、冷たい飲み物、ともにたくさんの種類があり、座って飲める様にベンチもあります。勉強の合間の休憩等にご利用ください。ただし館内への飲食物の持ち込みはできません。

また、飲食のために一時退出した場合にも、再度入館する際には学生証が必要になりますので、荷物等は必ず持って出るようにしてください。

## 延滞資料の通知を電子メールで始めました

図書館資料を借りたまま返却日をすぎた場合、V-Campusで登録されているE-mailアドレスに通知するよういたしました。延滞資料があると新しく本を借りることができませんので、至急貸出をうけた館に返却してください。自分が借りている資料は、図書館ウェブサイトにあるMyLibraryからご確認いただけます。[\(http://opac.rikkyo.ac.jp/mylibrary/\)](http://opac.rikkyo.ac.jp/mylibrary/)

なお、自動的にメール送信されるため、行き違いになった場合は、ご容赦ください。

フレッシュな気持ちで大学生活を始めようとしている新入生の皆さん。まただんだん深まってゆく専門の学習と全カリの勉強とを並行して続け、就職にも関心を向け始めている2年次生以上の皆さん。学生諸君はそれぞれ違う状況にあります。「共通の必読書」をあげるのは難しいことです。そこで、ここでは高校生活を終わったばかりの新入生の人たちをもっぱら念頭において「こんな本を読んでほしい」と思う10冊をあげてみましょう。

まず挑戦してほしいのは、これまで敬遠していた古典の大作を読んでみることです。図書館や書店の文庫コーナーに行けば山のようにありますが、特に奨めたいのはドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』とサマセット・モームの『人間の絆』です。『カラマーゾフの兄弟』は推理小説と思って読んでも結構。高Ⅱの夏休みに宿題も忘れて引き込まれて読んでしまったのを思い出します。こうした古典大作は、「人間」というものを分からせてくれます。あまり長いのは困るなあとと思う人には、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』や夏目漱石の『こころ』もお勧めです。『こころ』は読書感想文で無理やり読まされた人もいるでしょうし、『車輪の下』は受験時代に身につつまされて読んだ人もいるでしょう。でも、そういった束縛から解放された今、じっくり読んでみると、また違った感想が出ます。

立教はキリスト教精神に立つ大学です。しかし学生の皆さんの中にはノン・クリスチャンの人が圧倒的に多いでしょう。私もそうです。しかしキリスト教の中にどんな教派があり、それぞれどのように違うかを知っておくことは、大変有意義です。百瀬文晃編『諸教派のあかしするキリスト』は、とても分かりやすく、かつ行き届いた入門書です。立教をつくってきた「聖公会」という教派の特質も理解でき、私は大いに勉強させてもらいました。また、立教での勉学について知りたいと思う人には立教大学全学共通カリキュラム運営センター編『立教大学<全カリ>のすべて』も有益な本です。立教でなぜこういうカリキュラムがつけられたかを詳しく知ることができます。

現代の世界と日本について新しい勉強をしてみたいと思う人もいるでしょう。そういう人にも、新しい本だけでなく、特に歴史と環境問題についての現代古典というべき本を奨めたいと思います。「昔から歴史は嫌いなんですよ」という人には、E.H.カーの『歴史とは何か』を覗いてほしいと思います。歴史とは「昔ばなし」ではなく、「呪うべき暗記の材料」でももちろんなく、実は現在と未来を考える手立てなのだということが分かるはずです。環境問題については、地球温暖化を扱った本をはじめ、おびただしい文献が次々に出ています。興味の向くままに読めばいいのですが、必読書といえば、やはりカーソンの『沈黙の春』です。正確な科学研究と深い思索と人類的危機感とが結び合うときこういう作品ができるのか、ということが分かる第一級の現代古典です。

新入生の中には「これからレポートや論文を書かなければいけないらしい。どうしようか」と思っている人もいるでしょう。標準的に奨められる参考書は木下是雄『レポートの組み立て方』ですが、断然のお勧めは、野矢茂樹『論理トレーニング101題』という変わった題名の本です。人に奨めて感謝されなかったことはありません。101題のドリルを解いていくうちに、「なるほど論理的に考えるとこういうことか」ということが分かるだけでなく、レポートの書き方も断然うまくなります。

※文中にあげられた資料はすべて立教大学図書館で所蔵しています。

開館日程等については図書館のホームページでご案内しております。

(<http://opac.rikkyo.ac.jp>)

※その他変更がある場合はその都度、掲示でお知らせします。